

平成22年度 学校評価実施報告

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
1. 将来を担う人材を育成するために生徒の興味を喚起し、学習意欲を引き出す授業の工夫と確かな学力のさらなる向上を目指した授業研究を進め、指導と評価を一体化させた授業改善に努める	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力把握や学習状況の分析を踏まえ、研究授業や校内研修などを通じて授業改善に積極的に取り組む。 生徒による授業評価や観点別評価を指導に生かすため、評価結果の検証や指導方法の改善を図る。 教科等との調整を十分に図り、新学習指導要領を踏まえた教育課程の整備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業や校内研修は積極的に行われたか。授業改善により学習意欲の向上が見られたか。 生徒の学力把握や学習状況の分析は十分になされたか。授業改善により授業への9割の肯定的な評価が確保できたか。確かな学力の向上はみられたか。 生徒による授業評価を参考にし、生徒一人ひとりに注意を払いながら授業を行い着実に学力が身につくような授業が行えたか。 評価結果の検証は十分行われたか。検証を踏まえた指導方法の改善は図られたか。 連絡・調整は適切に行われたか。学習指導要領や学校目標に沿った教育課程の整備が行われたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 国の研究指定事業や初任研に関連しての研究授業が積極的に行われた。発表やプレゼンテーションを取り入れた授業等で生徒の意欲的な取組が見られた。 授業や家庭学習を通じた学習状況の分析、定期試験や実力試験を通じた学力把握を積極的に進め、授業改善に結びつけることができた。授業評価で91%の肯定的な評価が確保できた。 観点別評価は適切に行われた。生徒、保護者の理解を得るため、成績算出の方法を詳細かつわかりやすい資料を作成し周知に努めた。 各教科で検証結果を踏まえ改善策を全生徒に通知した。 カリキュラム検討プロジェクトチームや教科代表者会議、各教科の検討を通じ、新教育課程の枠組みを定めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 先進校の実践例を取り入れる等して、引き続き組織的な取組を進める。 学力診断テスト等の結果分析を深め、生徒層の変化に適切に対応する。 引き続き適切な観点別評価の実施と通知の工夫を図る。 引き続き評価結果を踏まえ教科全体で指導方法の改善に努める。 新教育課程の実施に向けて、移行期の調整や広報、説明を工夫する 	(保護者) <ul style="list-style-type: none"> 学校の授業や学習活動が、本人の将来のために役立つと思う。 英語科の英語による授業実践はすべての学年で取組んで欲しい。 学習内容や教材の工夫を丁寧に行っていただき、基礎・基本を重視したわかり易い授業を受けることができ満足している。 発展的な内容を重視した、わかり易い授業を受けることができ、満足している。 長期休業中にも講座を開設し指導していただけるなど、熱心に取組んでいただき感謝している。 保護者が気軽に年間を通して授業参観できる機会をもっと増やして欲しい。 	(学校評価) <ul style="list-style-type: none"> 国の研究指定事業である、「学力の把握に関する研究指定事業」への取組みや初任者研修に関連した授業研究への積極的な取組みにより職員の授業研究への意識が高まった。この定着が今後の課題である。 生徒による授業評価において全体的には目標どおりの91%の肯定的な評価結果が確保できたが、一部で改善が求められる教科・科目もある。 パソコン導入による図書館の利便性を図ったり、授業研究にビデオ活用を導入するなど生徒の学力や職員の研修成果向上のための工夫は今後の改善に向けて評価できる。 観点別評価が適切に実施でき、生徒・保護者の理解がより一層深まるよう説明等の工夫を行った。 授業研究、授業改善については生徒の実態、ニーズを的確に把握・分析しよりよい授業づくりに向けた職員全体の組織的な取組みが必要である。

<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理に十分配慮し、関係グループと協力しながら成績処理支援システムの円滑な運営に取り組む。 ・生徒、保護者に教育課程等の内容を十分に説明する。また、図書館の整備など学習環境の充実を図る。 ・教科会において（または各科目担当者間で）教材の工夫・共有化を図りながら積極的に情報交換を行い、指導方法・指導内容・評価の改善に努める。 ・個別指導や補習等を積極的にを行い、学力の伸長・定着を図る。 ・指導方法の工夫・改善をするために科目担当者間での連絡を密にし、教材の工夫・共有化を図りながら、よりよい授業へ向けて学年間の連携を深め、積極的な取組みを行う。 ・日頃から個に応じた指導に努め、生徒に適した教材の開発・研究を図り基礎から応用へ無理なく学力がつくように工夫する。また生徒の主体的な力を引き出すことができるような授業作りを努める。 ・観点別評価を念頭に置いた 	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールや説明は適切だったか。安全で効率的な運営は行われたか。 ・説明は適切に行われたか。図書館等の整備は進んだか。 ・生徒の学習状況を通じての指導方法・指導内容・評価の改善が、生徒の意欲を引き出すことに通じているか。 ・小テストや定期テストに指導の結果が表れているか。 ・授業見学や研究授業を通じて担当者間で連携をとりながら、より良い授業のヒントを学ぶことができたか。また教材の工夫・共有化を図ることができたか。 ・長期休業中に前年度より質的にも量的にも充実した講習を行い、応用力養成に努めることができたか。 ・観点別に応じた適切な 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績処理支援システムを3学年通じて稼働させ、調査書発行等を事故なく行った。また、指導要録の記載、入力に関する研修を行った ・グループで十分な検討をし、教育課程説明会等で適切な説明を行った。図書館整備については蔵書データベース化を完成させ、図書館内パソコンを検索用を使用することにより生徒の貸出の利便性を図った。 ・生徒作品の教材化や発表実践的な問題演習等多様な授業の形を追究し一定の成果をあげた。試験問題の意見交換も評価の改善につながった。 ・ワークシートの工夫や長期休業中の講座を設置して学力の向上に効果があった。 ・授業見学や研究授業を通したり、授業をビデオにとったりすることでより良い授業の実践をした。他校や他県からも取材があり、共有化を図ることができた。 ・夏期講習を組織的に実施し、特に3年生においては進路実現を考慮した発展的内容の講習を実施し、また進路に即した個別指導を行った。 ・提出プリントや試験問題に 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績処理支援システムワーキンググループからの業務移管を安全に進める。 ・教育課程説明会の開催時期を早め、生徒の科目選択に供する。老朽化している図書検索用パソコンの更新、充実を図る。 ・生徒主体の授業を意識的にを行い、生徒の学習状況や進路の多様性に対応する多様な指導方法を追究したい。 ・引き続き授業展開を工夫するとともに週末課題や講習等で学力の向上を図る。 ・引き続きより良い授業を目指し教材の工夫や共有化を図りたい。 ・生徒の興味関心を高めるような教材研究や授業展開を進めるとともに、わかりやすい、生徒主体の授業を進めていきたい。 ・提出物が多くなり点検にか 	<p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価で91%の肯定的な評価を確保できたことは評価できる。 ・生徒による授業評価が他の教科に比べて低い教科があるが、生徒の学習意欲を高める工夫が必要であると思う。 ・英語科の研究指定の実践発表は生徒が楽しく緊張感をもって授業を受け、結果意欲が高まり、学力を大いに高めることとなり、すばらしい。是非他の教科でも生徒主体の授業に取り組んでほしい。 ・授業改善やそれにとまなう校内研修は年間計画の中でしっかり位置づけて生徒のためにより授業づくりに取り組んでいただきたい。 ・観点別評価の保護者への通知等の結果を踏まえて、保護者の意見等も的確に把握しながら授業改善に臨む必要があると思う。 <p>(その他)</p>	<p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習意欲や学習成果がより高いレベルで定着していくため、一層の学力向上に向けて学習環境づくりや教材研究に各教科等を中心に組織的・計画的に取り組んでいく。 ・学力診断テストを有効に活用し、事前学習や振り返りを徹底し、学力の向上に結びつけていく。 ・観点別評価に関する説明等生徒・保護者に対して学校としての取組みについて引き続き説明責任を果たしていく。 ・学校へ行こう週間の活用を図るとともに、年間を通して保護者が授業を気軽に見学できるよう行事予定等を工夫していく。 ・授業研究、授業改善についてはこれまでの取組みを踏まえて、校内組織の活性化や外部教育力の活用なども含めてより効果的・実践的な研修・研究体制を校内に位置づけられるよう職員一丸となって取り組んでいく。
---	--	--	---	---	--

	教材の精選に努めるとともに、学習プリントや試験問題の工夫を図る。	教材を取り上げ、指導方法を研究できたか。	観点を明示し、評価につなげた。指導過程で生徒の学習状況を把握することができ、授業改善に活かすことができるとともに、きめ細かく評価を示すことで生徒自身に学習の見通しを持たせることができた。	なりの時間を要する。自己評価や相互評価の方法を工夫し、作業の効率化を図る。		
2.一人ひとりの生徒の可能性を広げるための進路指導及びキャリア教育を計画的・体系的に実施し、ガイダンス機能の充実を図るとともに、高い水準の進路保障を実現させる。	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間などを通して、3年間を見据えた「キャリア教育実践プログラム」を充実させ、生徒一人ひとりが主体的に進路を考える機会を積極的に設け、生徒自らの興味・関心や適性を把握させるとともに、職業観を確立し、進路実現に向けて支援をする。 生徒自身が主権者及び歴史の形成者の一員として自覚できるよう模擬投票に至る指導を充実させるとともに次年度からのシチズンシップ教育導入に向けた具体的な準備を行う。 スタディーサポートや実力テストの結果分析をおこない、進路実現支援に活用する。 実力テストや進路説明会等を通して、生徒の進路に対する意識を高めるとともに、一人ひとりの適性にあった指導・助言を行う。 使いやすく親しめる進路指導室を目指し、進路資料の充実と円滑な管理運営に努める。 学力診断テストやカリキュラム説明会等を通して生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 「キャリア教育実践プログラム」に即して、生徒が主体的に進路を考えることができる機会を、十分設けることができたか。 シチズンシップ教育の具体的な準備が進んだか。 スタディーサポートや実力テストの実施結果が、生徒の進路指導の資料として有効活用できたか。 希望する大学への進学率を80%以上にできたか。 生徒の進路指導室の利用率を前年比20%増にできたか。 一人ひとりの適性にあった指導・助言ができ 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的・体系的に講演会やガイダンスを実施することができた。また、「進路の手引きキャリアガイド編」の作成により、総合的な学習の時間の充実を図ることができた。 シチズンシップ教育の取組を「23年度キャリア教育実践プログラム」の中に位置づけることができた。 7月の参議院選挙の際には模擬投票を実施した。 実施時期や内容の見直しを行い、タイミングよく効果的な学習支援・指導を行った。 概ね達成できた。 教員補助者と連携し、進路情報の提供と貸出サービスの拡充を図った。利用者は前年比2倍となった。 実力テスト結果が出たところでそれぞれの学年職員の研修を行い問題意識 	<ul style="list-style-type: none"> シチズンシップ教育の取組を踏まえ一層充実したキャリア教育の推進に努める。 外部諸機関と連携し、効果的なシチズンシップ教育を実施する。 教科指導等にも活かせるよう学年、キャリアガイダンスG、カリキュラムGの連携を強める。 引き続き高い進学率を保つよう指導する。 進路委員を活用し、生徒のニーズを把握しながら引き続き利用しやすい進路指導室を目指す。 一層の結果分析を推進し、職員間の課題意識を共有し 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方や進路決定などについて、きめ細かなガイダンスが行われおり、必要に応じて細かい相談ができる体制は満足している。 「総合的な学習の時間」の学習内容が充実・工夫されており、進路実現に向けて幅広い視点で学習ができていることに満足している。 進路指導室の内容が工夫・充実しており、進路に関する最新情報を得やすくなっており、生徒の利用状況が前年比2倍となったことは喜ばしい。 進路実現に向けて夏期講習に積極的に取り組んでいただいている。内容も充実しており、長期休業中の指導を引き続きお願いしたい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> シチズンシップ教育の視点からみて、模擬投票は大変効果的な試みである。シチズンシップ教育の趣旨を明確にして、地域で活躍できる人材育成に積極的に取り組んで欲しいと思う。 大学進学率の目標は概ね達成されているようであるが、引き続き高いレベルで一人ひとりの生徒の 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> シチズンシップ教育については、具体的な準備を進めることができ、「23年度キャリア教育実践プログラム」の中に位置づけることができ、推進体制づくりができた。 生徒一人ひとりの進路実現に向けた指導の充実のために、今後は教科指導等とも関連させる必要がある。 ガイダンス機能の充実のために、進路情報の提供と貸出サービスの拡充を図ったことで、利用する生徒が増加したことは評価できる。今後も生徒のニーズを的確に把握し、進路支援に効果的な情報提供に努めていく。 実力テストによる生徒の学力等の現状分析結果を職員が共有し、効果的に進路支援につなげる体制づくりを進めることができた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの進路実現に向けた指導の充実のために、教科指導等とも関連させる必要があることから、キャリアガイダンスグループとカリキュラムグループとの連携体制づくりを推進する。 シチズンシップ教育が目指す「政治参加教育」「司法参加教育」「消費者教育」「道徳教育」の四つの柱をキャリア教育のカリキュラムに的確に反映

	<p>の向学心を高め、一人ひとりの適性にあった進路指導を行う。</p>	<p>、進路に対する意識を高めることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路情報が適切に提供でき、進路目標が具現化できたか。 ・「総合的な学習の時間」において、生徒の進路実現に向けた情報提供を適切に行ったか。 ・生徒の適性や能力の把握に努め必要に応じて個別相談を行ったか。 	<p>の共有化を図った。また生徒全体に振り返りを実施し、個別の面談を行い進路意識の向上を図った。</p>	<p>生徒の学力向上に資する。</p>	<p>適正にあった進路実現に向けて指導を工夫して欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の充実に向けて生徒がどのような情報を求めているかなど、保護者も含めたニーズをしっかりと把握し、目標設定に必要な的確な情報提供に努めていただきたい。(その他) 	<p>させ、本校の学校目標である大学進学最終目標とするのではなく、その先を見据えたバランスのとれた人材の育成のために、「23年度キャリア教育実践プログラム」のなかで具体的に取組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する生徒や保護者のニーズを様々な機会を活用し的確に把握し、具体的且つ効果的な支援に取組んでいく。
<p>3. 部活動や委員会活動及び学校行事を計画的に支援し、さらなる充実を図りながらホームルームを活性化させ、きめ細かい指導・相談体制を構築し、豊かでバランスのとれた人間育成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等の企画立案を工夫するとともに、始業式、終業式等の集会行事を通して規範意識を高める。 ・部活の日などの入部奨励や活動支援のための情報提供を積極的にする。また、学校行事では生徒の主体的な運営を計画的に支援する。 ・生徒の支援態勢を密にするため、担任及び学年を中心とした全職員、さらにスクールカウンセラーや校外の支援機関とも連携したサポート会議の運営に努める。 ・学年全体で相談しやすい環境作りを心がけ、生徒の心のケアに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会等において、規範意識を高めることができたか。また、年2回以上学年集会を開くことができたか。 ・部活動のさらなる活性化を目指し、部活動加入率85%以上を達成できたか。 ・他の目標と偏りのないバランスのとれた活動であったか。 ・相談の必要な生徒をサポートする相談体制がうまく機能したか。 ・学年で生徒の動向についての情報の共有化が図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な会議を経て次年度の行事等の企画立案をした。また、全校集会において話を聞く態度等の指導により規範意識を高めた。 ・延べ人数での加入率は達成できたが、生徒一人当たりの加入率では達成できなかった。 ・概ね自主的で主体的な学校行事の運営ができた。部活動・学校行事と学習との取組のじじめや切り替えが比較的スムーズに進み、バランスのとれた活動ができた。 ・問題をかかえていると思われる生徒とその保護者に対して年間を通して支援体制を組んだ。複数回のサポート会議を開く中で、担任、学年、及び外部機関とも連携しながら有効な支援体制を模索した。 ・学年会や保護者との面談を通じて情報を共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習をする場所と集会をする場所が離れているので移動の問題がある。 ・新入生に部活動の内容を理解してもらえぬ企画や工夫をする。今年は、途中退部者が多く状況について精査し対策を検討する。 ・行事の時期が集中し、検討の時間が十分に取れないので運営組織を再検討する。部活動や学校行事の意義と目的を考える機会を設け、生徒にどのように行動する必要があるのかを再認識してもらい指導を継続する。 ・チーム支援の意義を考えながら関係者以外の職員とも情報を共有する等サポート会議のあり方を工夫して職員がその機能をよく理解し、さらに活用できる環境を整えていく。 ・今後も引き続き学年会等を通じ生徒の情報を共有化できるようにする。また、面談等を通じて家庭との連絡をとり生徒支援を推進す 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行や体育祭など、学校行事や生徒会活動で充実した活動ができたことでとても満足している。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動のインターハイ出場、関東大会出場等活躍がめざましく外部に対しても誇れることである。 ・部活動の途中退部者が多いということが気にかかるので、今後の指導のあり方等を検討していただきたい。 ・生徒が行事や部活動で様々な活動を通して体験的に学ぶ内容は今後の人生を生きていく上で大変貴重なものである。引き続き学校としての支援体制づくりをしっかりと進めて欲しい。 <p>(その他)</p>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会行事の実施にあたっては、校舎間の移動に伴う課題が残されているが、集会による指導により聞く態度の改善など規範意識の向上が図られた ・部活動加入率については、延べ人数では目標を達成できた。しかし、途中退部者が多くなっている傾向については、原因を分析し指導に反映させていく必要がある。 ・学校行事のよりよい運営に向けて、組織のあり方を見直し、効果的な指導体制について検討する必要がある。 ・相談等の必要な生徒のサポートに取組むことはできたが、組織的なサポート体制をより一層充実していく必要がある。 ・部活動や学校行事等の生徒の主体的な取組みにより、生徒の協調性やリーダーシップの育成に繋げることができた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・途中退部者が多くなっている傾向については、キャンパスライフグループや担任等が連携し原因を分析し、生徒が

	<ul style="list-style-type: none"> 合唱コンクール、体育祭などの行事や、部活動などの特別活動を通して、生徒の協調性やリーダーシップを育成し、自主的な活動を支援する。 ホームルームでの指導を通じて、生徒の基本的な生活習慣を確立させるとともに、部活動や委員会活動及び学校行事において生徒の能力が十分に発揮され、協調性やリーダーシップが育成されるよう支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の協調性やリーダーシップを高めながら各種の行事を実施できたか。 部活動や委員会活動及び学校行事に関する生徒への支援を行ったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームルームや集会時に規範意識や基本的な生活習慣の確立を指導するとともに行事や部活動や委員会活動において生徒がたがいに理解し切磋琢磨する中で協調性やリーダーシップの育成をした。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年会で情報を共有し、引き続き逞しい人間の育成に努める。 学校行事や部活動が楽しいというだけでなく活動を通じ逞しい人間形成につながるよう企画運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来に向けて明確な目標を常に保持できるように、分析結果を指導に反映させていく。 相談等の必要な生徒の支援体制の充実に向けて、職員のチーム支援充実に向けて、サポート会議のよりよい改善に向けてライフサポートグループを中心に検討を進める。また、校外の様々な支援機関についても積極的に活用できるように研究体制づくりに努める。 部活動や学校行事等の生徒の主体的な活動をとおして、引き続き将来を見据えた逞しい人づくりにつながるよう、協調性やリーダーシップを保持した人材育成の推進を図っていく。
<p>4. 情報発信を適切に行いながら家庭や地域との連携を一層拡大し、生活環境の整備・充実に努め、生徒の安全を図るとともに、学校評価を取り入れた学校運営の工夫改善を行い、求められるニーズに応える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「学校へ行こう週間」や「学校説明会」、「オープンスクール」、「部活動見学・相談会」等の公開事業やPTA活動等を通じて地域や中学生に開かれた学校づくりを積極的に進め、地域や学校、保護者との連携・協力を図っていく。 「学校案内」や「学校ホームページ」などの広報活動の充実と一層の情報公開を進めていく。 高大連携事業を通じて大学との交流・連携を深める。 スクールニューディール事業、校務の情報化及び情報の共有化をより一層推進し 	<ul style="list-style-type: none"> 地域はもとより、多くの人々に本校の教育活動を理解していただく機会が設けられたか。また、地域や学校・保護者との交流活動の連携は十分図られたか。 中学生・保護者対象の学校説明会や部活動公開・相談会を年間5回以上開催し、前年度を上回る成果を達成できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開事業やPTA活動を通じて本校の教育活動の理解を図った。 5回以上開催した。説明会 公開事業・学校見学会と、どの行事も昨年を上回る参加者があった。 インターンシップの勤労体験学習発表大会で小中高大連携による発表大会でよい発表をした。 スクールニューディール事業による機器の有効利用ができた。また、職員 	<ul style="list-style-type: none"> 公開事業やPTA活動の一層の充実を図るため実施形態・内容の検討をする。 「学校案内」やホームページの充実を図り開かれた学校づくりのため積極的な発信を行う。 生徒がよりよくなかかわることができるような連携事業を推進する。 異動職員に対する周知の方法を工夫する。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者に対する学校側からの様々な説明の機会が設けられており、学校の様子が分かりやすい。また、子どもの相談にも丁寧に対応していただいている。 学校はPTA活動について熱心に取り組んでいると思う。今後も保護者と学校との連携を強化して欲しい 交通安全については自転車通学の生徒が多いので、乗り方のマナーや安全について学校でもしっかりと指導をお願いしたい。 これからも子どもが安全で安心な学校生活を送ることができるよう協力していきたい。 <p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校としての様々な教育活動への取り組みについて、保護者や地域の理解と協力を得るためにPTA活動や公開事業を積極的に活用し連携を深めることができた。 学校説明会や学校見学会、公開事業では開催回数も目標を上回り、参加した中学生、保護者等も昨年実績を上回った。 インターンシップの勤労体験学習発表大会ではよい成果を残すことができた。今後も各校種間とよりよい連携を促進し、キャリア教育の充実にも繋げていく。 地域貢献デーの清掃活動への取り組みでは環境改善、地域との共生等について生徒への意識啓発を図っているが、今後はボランティア活動の活性化も含め

<p>、IT機器を使った授業や効率的な事業業務ができるよう職員支援を行うとともに、職員研修を通してICTリテラシーの向上を図り事故防止に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的な登校時指導や交通安全指導を通して、生徒の事故防止に向けた主体的な考えと行動を促す中で交通事故ゼロを目指し、合わせて交通マナーの向上に努める。 臨時新校舎の環境整備に努め、快適な学習・生活環境を維持するとともに、校舎周辺の清掃活動などを通して地域との共生を図る。 学級懇談会・保護者面談を実施し、情報を共有し家庭との連携を密にする。 体育施設の整備・安全点検を随時実施し、授業・部活動・学校行事等が安全に行えるように努める。 	<p>することにより、校務の情報化・共有化の推進及び情報セキュリティの確保、職員のICTリテラシーの向上を図ることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 通学時の交通事故防止や交通ルールの徹底などの注意喚起を行い交通事故を防ぐことができたか。 校内の清掃活動や地域貢献デーの活動を通じて学校周辺の生活環境の改善に努めたか。 学級懇談会・保護者面談を年2回程度実施し、情報を家庭と共有し、連携を密にすることができたか。 体育の授業や学校行事、また部活動が安全に行えるよう施設の安全点検・整備を行ったか。 	<p>研修等を通して事故なく運営することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の安全に関して登校時指導、全校集会での注意喚起、LHR時の指導等意識啓発を行った。自転車の整備をPTAと連携して行った。1年を対象に「交通安全教室」を実施した。 学校技能員や事務室と連携を図りながら、旧校舎敷地、体育施設及び臨時新校舎の環境整備に努めた。日頃の生徒による清掃活動により概ね快適な生活環境は維持できた。地域貢献デーを活用して地域周辺の環境にも目を向けた。 実施できた。 安全点検を随時おこないグラウンドフェンスの増設や夏場の温度管理のための温湿度計設置などの整備をおこなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 軽度ではあるが登下校時の自転車による負傷事故が何件もあった。 長期休業明けに登校指導を行い自転車事故防止に向けて継続的・定期的に注意を促していく。交通安全に対する意識を学校全体で共有していく。 教室等の清掃用具の整備、美化倉庫の整理を進める。 事務室・現業の方々と連携しながら効果的な環境整備に努める。地域の清掃活動は一層の生徒への啓発が必要である。 生徒のボランティア活動の意識啓発を図る。 引き続き家庭との連携を図って生徒を多面的に理解していきたい。 施設の老朽化に伴い引き続き点検・整備が必要になるので、安全点検を随時実施していきたい。 	<p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事の地域等に対する連絡など、学校からの情報発信は概ね適切であり、理解できるものである。 生徒に対する交通安全に関するアンケートは大変よい取組みであり、このアンケートの中から今後の新たな指導の方向性が見えてくるのではないかと。アンケート内容を更に検討し、充実させていくべきである。 今後の地域と学校との在りかたの一つとして、清掃活動なども大切だが、避難訓練にも積極的に参加するのも検討の価値があると思われる。 インターンシップの勤労体験学習発表大会で立派な発表ができたということだが、今後も大学や中学、小学校など各校種間の連携を推進し教育活動に生かしていくべきである。 <p>(その他)</p>	<p>た意識啓発に努めていく。(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も引き続き中学生や保護者、地域に対して様々な情報発信をタイムリーに行うことで、より一層開かれた学校づくりを推進していく。 本校を希望する中学生・保護者対象の学校説明会や部活動公開・相談会などの公開事業についてはアンケート等をおしてニーズを的確に把握し、開催回数や内容の充実を図っていく。 交通安全指導について生徒の実態等を踏まえながら安全な乗り方指導や自転車の管理方法等に職員一丸となって取り組み、保護者も含めて安全意識向上に向けた意識啓発を継続的にやっていく。 生徒のボランティア活動の意識啓発はキャリア教育とも絡めて取り組んでいく。 PTA活動については、引き続き一層の充実を図るため連携を深めていく。 異動職員に対するOJTを年間を通して計画的に実施し、職員全体の連携を深めながら業務の円滑化を促進する。 生徒が日々安全で安心して教育活動に取り組むことができるよう施設面の管理や防災体制の整備更には日常の安全点検を適切に行っていく。
---	--	--	---	---	--

